『就実教育実践研究』第12巻　抜刷
就実教育実践研究センター　2019年３月31日　発行

# 造形ワークショップ「こねこねマーケット」の試み

**Attempt at planning and running an art workshop “KONE KONE MARKET”**

藤　田　知　里

# 造形ワークショップ「こねこねマーケット」の試み

藤田知里（初等教育学科）

# Attempt at planning and running an art workshop "KONE KONE MARKET"

Chisato FUJITA（Department of Elementary Education）

抄録

本報告は，2018年５月19日（土）に開催された，子どもの造形活動をより豊かなものとするために，学生が中心となり企画・運営されたワークショップ「こねこねマーケット」に関するものである．

2011年度から毎年１回，就実大学教育学部初等教育学科で筆者のゼミナールに所属する４年生が，親子で造形活動を楽しむためのワークショップを開催している．本報告のプログラムは，①ぼうしをかぶって大変身！！，②こねこねマーケット，である．このワークショップを通して，参加した子どもには，小麦粉粘土という材料体験をもとにした造形活動と，友達や保護者，学生と関わって楽しむごっこ遊びを提供でき，また学生には，子どもの造形活動における指導や援助について実践から学ぶ貴重な機会となった．

キーワード　造形ワークショップ，子ども

## Ⅰ　はじめに

斎藤孝は，粘土遊びのように視覚だけではなく，触覚，嗅覚，聴覚など，様々な身体感覚を駆使して活動することは，子どもにとって「生活していくために必要な身体の技術基礎であり，人間同士のコミュニケーションにも不可欠なもの」[1]と指摘している．

筆者は，上記のような身体全体で関わる粘土遊び，特に，家庭では経験しがたい，ダイナミックな活動を提供できるワークショップを毎年開催してきた．本報告によるワークショップは，就実大学初等教育学科で図画工作・造形表現のゼミナールに所属する学生が主体となり企画・運営を行ったもので，当日は16組，42名（ワークショップ参加者24名，保護者17名，乳児１名）の親子が参加し，工作や粘土遊び，お店屋さんごっこを楽しんだ．

## Ⅱ　「こねこねマーケット」取り組みへの経緯

### １　ワークショック開催のねらい

ワークショップのねらいは，「①子どもが小麦粉粘土という材料に親しみ，その感触を楽しみながら，思いついた好きなものをつくること」，「②造形ワークショップの開催を通

して，学生が造形に関する子どもたちへの指導及び援助について学ぶこと」，の双方向性のあるものとした．

ところで，前年度のワークショップ「こねこねフェスティバル」では，硬度の異なる３種類の小麦粉粘土を子どもたちと一緒につくり，それぞれの粘土の特性を生かした造形活動を子どもに取り組んでもらうことをねらいとした．

しかし，「小麦粉粘土をつくること」それ自体に時間がとられてしまった上に，それぞれ（的あて，お絵かき，好きなものをつくる）の活動に適した小麦粉粘土をうまくつくることができなかった．それにより，プログラムを予定通り進めることが困難になったり，活動が上手くできなかったりしたことが反省点として挙げられた．

上記を踏まえ，本ワークショップのように単発で時間制限があるものでは，「小麦粉粘土」をつくること，「小麦粉粘土で遊ぶこと」の両方ともに実施することは難しいと考え，2018年度開催のものは，「小麦粉粘土で遊ぶこと」のみをプログラムの主軸とした．

山野てるひによれば「子どもの造形は，上手にかけたか，つくれたか，何（対象）が表されているのかを判断されるためではなく，かき，つくられた色や形や対象の向こう側にあるその子どもの体験（どのように感じたのか）を読み取って受けとめ，共有し『共感』されるために生れてくる」[2]ため，本ワークショップは「お店屋さん」の設定とし，「共感」をねらいに加えることとした．したがって「③お店屋さんごっこの活動を通して，お互いの役割を理解し，お店で売りたいもの，買いたいもののイメージを共有しながら，子ども同士，子どもと保護者，子どもとワークショップのリーダーである大学生がコミュニケーションを取りながらお互いの表現に共感し，表現活動を楽しむ」ことを併せてワークショップのねらいとした．

## ２　「こねこねマーケット」開催までの準備

ワークショップに関する調査やプログラムの検討は，2017年度後期授業の終わり頃から始めた．筆者ゼミナールの４年生が主となり運営するため，前年度のワークショップの活動記録を見直し，プログラムの内容について意見交換しながら，活動における指導上の配慮や留意点，準備物，環境構成等，プログラムの内容及び時間配分を決定した．参加費としての材料費は，小麦粉粘土の１人あたりの使用量を概算し，その他消耗品を含めて決定した．

ワークショップの参加募集定員は，ワークショップのリーダーとなる学生が責任をもって，参加者の世話や指導ができること，また，会場となる教室の広さを考慮の上，保護者と子どもで15組とした．会場は昨年度開催と同様，適度な広さがあり，造形活動に必要な道具や設備が備えられている就実大学Ｔ館デザイン室とした．事前に，３ｍ×３ｍのウレタンマットを敷き，その脇に机を10台，子ども用スツールを準備しておき，ワークショップが始まる前の「お絵かきコーナー」及びプログラム①「ぼうしをかぶって大変身！」で使用することとした．プログラム②「こねこねマーケット」のためには，マットと机の周

写真１　ワークショップの導入

写真２　ぼうしをかぶって大変身！！

りを囲むようにお店と作業台を設置した．保護者席は会場の後方を中心として設けた．流しには踏み台を置いて，子どもが水道に手が届くように配慮した．

各プログラムにおける詳細な準備は，後出の資料①～⑤「アイデアカード」を参照されたい．計画段階における「アイデアカード」及び事後の「活動記録」（資料①～⑤）は，昨年度に引き続き，和久洋三氏が作成したものを参考にして使用している．[3]

ワークショップの参加募集定員は小数のため，広報はチラシのみで行い，子ども，保護者ともに汚れても構わない服装で参加するよう明記した．チラシの配布は，就実大学附属就実こども園，及び大学近隣住宅で行った．

開催前日には，リーダーとなる学生が，子どもの名札や案内看板を含め，その他会場設営と併せて準備し，リハーサルを行い，プログラムの流れを確認した．

小麦粉粘土の準備は開催当日の朝行い，今回使用したのは薄力小麦粉10kgである．

## Ⅲ　「こねこねマーケット」実践内容

### １　「こねこねマーケット」の概要

「こねこねマーケット」は以下のように実施された．

日　　時　2018年５月19日（土）９時30分～11時30分
場　　所　就実大学Ｔ館405デザイン室
対　　象　幼児から小学生（必ず保護者同伴のこと）
参加定員　子どもと保護者15組
材 料 費　100円
プログラム
　①ぼうしをかぶって大変身！！
　②こねこねマーケット
　　・パ・パ・パ・パンやさん
　　・へいおまち！おすしやさん
　　・カラフル　ミラクル　アイスやさん

当日は，子どもと保護者16組，子ども25名，保護者17名の計42名が参加した．そのう

写真３　「こねこねマーケット」の導入

写真４　パ・パ・パ・パンやさん

ち，プログラムに参加したのは，24名である．リーダーとなる学生は４年生７名，３年生２名の計９名であった．

各プログラムでは，４年生のリーダーが担当を務め，進行にあたり，その他の学生が協力した．

## ２　プログラムにおける各活動の概要

### １）プログラム開始前（９時00分～９時30分）

ワークショップの受付は９時から始め，早めに来場した子どもはプログラムが始まる９時30分まで，「お絵かきコーナー」で遊ぶよう案内した．受付時に「お店屋さんごっこ」で使用する「お買い物券」を配布した．

### ２）導入（９時30分～９時35分）

ワークショップの導入では，挨拶に引き続き，プログラムとリーダーの紹介を行った．併せて，保護者に向け，ワークショップが研究活動の一環であることへの理解，写真撮影への許可をいただいた．

### ３）ぼうしをかぶって大変身！！（９時35分～10時00分）

子どもには１つの机に２人～３人ずつ自由に着席してもらい，プログラム②のお店屋さんごっこで被るための帽子の制作を行った．プログラムの雰囲気を良いものにし，参加者の期待を高めるために重要な活動である．手遊び「はじまるよ」を行い，プログラムの始まりを意識させ，リーダーが制作したコック帽を紹介しながら活動の説明を行った．

画用紙は事前に帽子の形に切っておき，子どもはスタンピングとコラージュを用いて自分の帽子に好きな模様をつけた．スタンピングは，板状スチレンを様々な形状に切り，木製の持ち手を付けたスタンプにインクを付けて使用し，コラージュは，折り紙を好きなように切って糊で貼ることとした．模様が完成したら，リーダーが輪ゴムを通しコック帽の形にした．完成した帽子を被ってマットの上に集まり，プログラム②につなげた．

写真５　へい おまち！おすしやさん

写真６　カラフル ミラクル アイスやさん

**４）こねこねマーケット（10時00分～11時30分）**

**①導入（10時00分～10時05分）**

パン屋さん，お寿司屋さん，アイスクリーム屋さんのリーダーを務める学生が，ペープサート，クイズ，手遊び等を交えながら，それぞれの紹介を行った．その後，子どもたちの好きな店に行って，思いついた商品をつくった．

**②商品つくり（10時05分～11時00分）**

**・パ・パ・パ・パンやさん**

小麦粉粘土を使用して，自分の好きなパンをつくった．パンができたら，茶色の絵具を表面に塗り，焦げ目をつけて完成．ピザやサンドイッチには，野菜や果物をプリントした紙をラミネート加工したものを「具」として使用した．また，パンつくりが難しい小さい子どもは，クッキー型を使用し，クッキーやビスケットをつくることができるようにした．商品はそのまま店頭に並べて置き，お買い物ごっこのときに，紙袋に入れて渡した．

**・へい，おまち！おすしやさん**

寿司のネタ（サーモン，マグロ，たまご，エビ）は，事前に準備しておき，子どもが小麦粉粘土で制作するのは寿司飯の部分のみである．リーダーが補助しながら，うまくネタが乗るように小麦粉粘土を握って好きなネタを乗せたり，海苔を巻いたりした．完成した寿司は，透明パックに詰め，店頭に並べた．

**・カラフル ミラクル アイスやさん**

小麦粉粘土を使用するのは，アイククリームの部分で，事前にリーダーが小麦粉粘土に色をつけ４種類（黄色，紫，黄緑，オレンジ）のアイスクリームをつくっておいた．活動では，最初に，子どもがカップかコーンを選び，油性マジックを用いて好きな模様を描いた．続いて，好きなアイスクリームをディッシャーでカップやコーンに盛りつけた．仕上げにはビーズやスパンコールを使用して，アイスクリームのトッピングを行った．完成したアイスクリームは，段ボールに穴をあけてつくったスタンドに立てておいた．

**③お買い物ごっこ（11時00分～11時30分）**

お買い物ごっこでは学生が店主となり，子どもは事前に配布された「お買い物券」を使用して客となった．

写真７　お買い物ごっこ

写真８　お買い物ごっこ

つくった商品について子どもたちに尋ねたり，他の子どもや保護者に紹介したりしながら，併せて鑑賞活動も行った．

## Ⅳ　おわりに

### １　ワークショップの成果

本ワークショップのねらいは３点挙げたが，ねらい「①子どもが小麦粉粘土という材料に親しみ，その感触を楽しみながら，思いついた好きなものをつくること」，については，子どもたちの活動の様子，完成した作品等から，概ね達成できたものと考えられる．昨年の反省から，小麦粉粘土を事前に準備しておいたことが良い結果につながった．子どもがつくりやすい状態の小麦粉粘土を提供することができたため，お寿司，パン，アイスクリーム，どの活動においても子どもが楽しく活動できていたように感じた．昨年度は，派手な色付きの小麦粉粘土を嫌がる子どもが見られたが，今回は，色付きの小麦粉粘土はアイスクリームのみに限定していたためか，触ることを嫌がる子どもはいなかった．

また，ねらい「②造形ワークショップの開催を通して，学生が造形に関する子どもたちへの指導及び援助について学ぶこと」，についてもアイデアカード，活動記録をまとめることで，各プログラムにおけるねらいや必要な援助等，様々な問題や課題が明らかとなり，次回の開催につなげることができるだろう．

ねらい「③お店屋さんごっこの活動を通して，お互いの役割を理解しお店で売りたいもの，買いたいもののイメージを共有しながら，子ども同士，子どもと保護者，子どもとワークショップのリーダーである大学生がコミュニケーションを取りながらお互いの表現に共感し，表現活動を楽しむ」に関しては，活動の前半においては，お店屋さんになりきって，帽子を被り自分が食べたいものや，好きなものを会話しながらつくることができた．また，周りの子どもがつくっているものからアイデアを膨らませたり，工夫を重ねたりしてイメージを拡げている様子も観察できた．活動の後半のお買い物ごっこのときには，お買い物券を使用して，子どもが「お客さん」として自分がつくったものを買い求めることができ，嬉しそうに袋に詰めてもらっている様子や，保護者に自分の作品について話したりする様子から表現に対する満足感と達成感が感じられた．

## ２　今後の課題

本ワークショップでは，上記のように「お店屋さんごっこ」としては十分に楽しく活動に取り組むことができたと思うが，ねらい①の「思いついた好きなものをつくる」という部分では不十分であったと考える．

パン屋さんではパンをこねたり成型したり子どもの創意工夫を凝らすことができたと思う．しかし，お寿司屋さんでは，小麦粉粘土で寿司飯部分を握りネタを乗せるだけ，という単純な活動のため，年齢の小さな子どもでも完成度の高い作品をつくることができたものの，創意工夫の余地はなかった．子どもが好きなネタをつくる，もしくは切ることができる部分があればより創造的な活動になったのではないか．

アイスクリーム屋さんも同様に，出来上がっているアイスクリームを盛り付けるだけの活動であった．小麦粉粘土に色をつけて自分の好きなアイスクリームをつくることができればなお良いであろう．

また，お買い物ごっこの活動では，子どもが店員から客に換わって遊んだ．特に混乱は見られなかったが，子どもはそのままお店屋さんとして商品を売り，保護者の方にお客さんになってもらうほうが活動の流れとしては良かったかも知れない．

本ワークショップは，コック帽つくりでの紙工作，店の商品をつくる粘土遊び，買い物ごっこ，のプラグラムで展開したが，どの活動においても子どもたちが喜んで積極的に活動してくれたことが学生たちにとっても大変嬉しい結果となった．

事後に保護者の方に依頼したアンケートでは，「是非またこういった機会をつくっていただけたらうれしいです」，「子供がすぐにつくりやすくしてあってとてもよかったです．親子で楽しめました．」等の感想をいただき，学生の働きを評価していただけたことも，彼らの励みとなったことであろう．

ワークショップの活動を通し，造形と教育に関するお互いの相互作用をめざし，学生と参加者が双方向性を持って学び合い，造形活動においてさらなる表現意欲，創造性を高めることができるよう，次年度開催に向かって気持ち新たに取り組みたい．

## 注及び参考文献


１ 斎藤孝，山下柚実，2002,『「五感力」を育てる』，中公新書，p.8.

２ 東山明，山野てるひ編，2004,『幼児の造形ワークショップ』，明治図書，p.194.

３ 和久洋三，2006,『遊びの創造共育法①子どもはみんなアーティスト』，玉川大学出版部，参照.

# 資料

## ①ワークショップ全体

**アイデアカード**　　実施日 2018/05/19

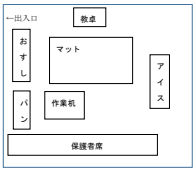
| 活動 | こねこねマーケット（全体） | 対象年齢　幼児-小学生<br>活動時間　2時間<br>対象人数　25　名<br>指導者数　9名 |
|---|---|---|
| 活動のねらい | ○小麦粉粘土の感触を楽しむ<br>○小麦粉粘土でつくりたいものをつくることを楽しむ<br>○友達や保護者，学生と関わりお店屋さんごっこを楽しむ | |

**活動内容**

【導入】
9時から受け付けを開始し，名札を渡す．
9時３０分から挨拶をして，今日のプログラムを紹介し，学生の自己紹介をする．注意事項(食べない，道具を振り回さない，粘土を投げない等)を伝える．
また，保護者の方に活動中のビデオ撮影や写真撮影をすることやアンケートの協力をお願いする．

【展開】
1．手遊び，学生が各お店の店員になりきって話す．
2．帽子作り『ぼうしをかぶって大変身!!』
3．制作，お店屋さんごっこ
『こねこねマーケット』
・パパパパンやさん
・へいおまち!おすしやさん
・カラフルミラクルアイスやさん

（環境構成）




【まとめ】
・作品の発表会を兼ねて販売をする。
・子どもたちが作品を持って帰れるように袋を用意する。
・終わりのあいさつをする。
・保護者にアンケートをお願いし，アンケート用紙・グリップボード・鉛筆を配布する。
・手洗い，片付けをして解散する。

**準備・用意・注意**

・小麦粉(1人 250g)
・水
・塩(防腐)
・絵具
・名札
・お買物券
・ブロックマット
・洗面器
・トレー
・タオル
・雑巾
・霧吹き
・子ども用いす
・保護者用いす
・粘土べら
・型ぬき
・持ち帰り用袋
・テープ
・コーン(段ボール)
・伸ばし棒
・すし用皿(段ボール)
・パック
・カップ
・アイスクリームディッシャー
・スパンコール
・ビーズ
・すしのネタ(紙粘土)

記入者　中前みなみ

**活動記録**　　実施日 2018/05/19

| 活動 | こねこねマーケット（全体） | 活動日 2018 年 5 月 19 日<br>対象年齢　幼児-小学生<br>活動時間　2時間<br>対象人数　25 名<br>指導者数　9名 |
|---|---|---|
| 活動のねらい | ○小麦粉粘土の感触を楽しむ<br>○小麦粉粘土でつくりたいものをつくることを楽しむ<br>○友達や保護者、学生と関わりお店屋さんごっこを楽しむ | |

**活動内容**

**準　備**

・小麦粉・・・250g/人
・水・・・110cc/人
・塩（防腐剤）・・少量
・絵の具
・机，椅子
・CDデッキ，カメラ
・マット
・お買い物券
・手拭き

準備したほうが良かったもの
・撮影係

| 進行 | 注意事項 |
|---|---|
| 【導入】<br>・会場に着いた子どもから，塗り絵を行う．<br>・時間になったら子ども達にマットに座るよう声掛けを行い，全体の挨拶や注意事項等の説明をする．<br>【ぼうしをかぶって大変身!!】<br>・スタンプや折り紙を用いて，子ども達が思い思いに帽子の型紙に飾り付けをする．<br>・出来た帽子に子どもの名前を書き，作品を撮影したのち，ホッチキスを使って帽子を作る。<br>【こねこねマーケット】<br>・パン屋・アイスクリーム屋・お寿司屋さんに分かれて小麦粉粘土で遊ぶ．<br>・お買い物券を使って，自分の作品を持ち帰る．<br>【まとめ】<br>・手を洗い，終わりの挨拶をして終了． | ・保護者席より後ろは大切な作品があるので椅子の後ろにはいかないこと．<br>・全員が３つのお店すべてで遊ぶことができるように，粘土は少し多めに作っておく．<br>・小道具（ピザカッターやピッチャー，紙袋やパック等）を用いることでお店屋さんごっこをより本格的に楽しむことができるようにする．<br>・粘土を作る際には，分量を量り子どもたちが遊びやすい硬さの粘土を作っておく．<br>今後の課題<br>・事前に学生が小麦粉粘土を作り，硬さや量はどのくらいであるかを確かめることで，片付けも簡単に，何よりも子どもたちにとって遊びやすい粘土活動であったと思うので，引き続き事前の確認を行っていくべきであると思った．<br>・帽子や塗り絵で撮影しきれていない分があったので撮影係がいるとよりよかったと思う． |

記入者　大澤　真弓

## ②ぼうしをかぶって大変身！！

**アイデアカード**　　実施日 2018/05/19

| 活動 | ぼうしをかぶって大変身！！ | 対象年齢　幼児-小学生<br>活動時間　2時間<br>対象人数　25　名<br>指導者数　9名 |
|---|---|---|
| 活動のねらい | ・スタンピングとコラージュの技法を楽しむ<br>・コック帽を作って，コックに変身することで次の活動へ興味が持てるようにする | |

**活動内容**

【導入】
○手遊び「はじまるよ」をする。
・子どもが手遊びを知っているか確認することで、活動に興味が持てるようにする。
○コック帽を見る。
・スタンピングとコラージュの技法を使った見本を見せることで、今からの活動の内容がイメージしやすいようにする。

【展開】
○活動の説明を聞く。
・スタンピング　①スタンプにインクをつけて紙に押す。
・コラージュ　①好きな色の折り紙を選び、手やはさみで切る。
②のりで紙に貼り付ける。
○机とマットのグループに別れる。
○コック帽を作る。
・安全のためはさみの使い方に注意するように声掛けを行う。
○完成した作品を指導の学生に渡す。
・名前の記入をして、輪ゴムを通して、コック帽の形にする。
・被りづらいので、学生がコック帽を被せる。
（○はやく完成した子どもは画用紙を渡して自由にスタンピング、コラージュをする。）

【まとめ】
○マットの上に集まる。
・完成した帽子を認める声掛けを行う。

**準備・用意・注意**

○コック帽
・画用紙
・ゴム 1人2個
・ホッチキス
・セロテープ
・名前ペン（名前記入用）

○スタンピング
・スタンプ
（トレーに取っ手をつけたもの）
・スタンプ台
・絵の具、筆

○コラージュ
・折り紙
（4分の1に切ったもの）
・でんぷんのり
（小皿にいれたもの）
・はさみ（いる人のみ）

記入者　坂本　奈津季

**活動記録**　　実施日 2018/05/19

| 活動 | ぼうしをかぶって大変身！ | 活動日　2018 年　5 月　19 日<br>対象年齢　幼児-小学生<br>活動時間　2時間<br>対象人数　25名<br>指導者数　9名 |
|---|---|---|
| 活動のねらい | ・スタンピングとコラージュの技法を楽しむ<br>・コック帽を作って、コックに変身することで次の活動へ興味が持てるようにする | |

**活動内容**

**準　備**

○コック帽
・画用紙
・ゴム 1人2個
・ホッチキス
・セロテープ
・名前ペン（名前記入用）
○スタンピング
・スタンプ（トレーに取っ手をつけたもの）
・スタンプ台
・絵の具、筆
○コラージュ
・折り紙（4分の1に切ったもの）
・でんぷんのり（小皿にいれたもの）
・はさみ（いる人のみ）

準備したほうが良かったもの
・霧吹き（スタンプ台に入れた絵の具が乾いた際に使用する）

| 進行 | 注意事項 |
|---|---|
| ○手遊び「はじまるよ」をする。<br>○コック帽を見る。<br>○活動の説明を聞く。<br>・スタンピング<br>① スタンプにインクをつけて紙に押す。<br>・コラージュ<br>①好きな色の折り紙を選び、手やはさみで切る。<br>②のりで紙に貼り付ける。<br>○机とマットのグループに別れる。<br>○コック帽を作る。<br>○完成した作品を学生に渡す。<br>（○はやく完成した子どもは画用紙を渡して自由にスタンピング、コラージュをする。） | ・スタンピングとコラージュの技法を使った見本を見せることで、今からの活動の内容がイメージしやすいようにする。<br>・安全のためはさみの使い方に注意するように声掛けを行う。<br>・名前の記入をして、輪ゴムを通して、コック帽の形にする。<br>・被りづらいので、学生がコック帽を被せる。<br>今後の課題<br>・活動をする時に、スタンプ台が乾いていて、スタンプが綺麗に写らなかったため、絵の具や水の量を直前に確認しておく。 |

記入者　坂本　奈津季

## ③パ・パ・パ・パンやさん

**アイデアカード**

実施日 2018/05/19

| 活動 | パ・パ・パ・パンやさん | 対象年齢　幼児-小学生<br>活動時間　2時間<br>対象人数　25　名<br>指導者数　9名 |
|---|---|---|
| 活動のねらい | ・他の子ども達と関わりごっこ遊びを楽しむ.<br>・小麦粉粘土に触れ，自分なりにイメージしてパンを作る. | |
| 活動内容 | | 準備・用意・注意 |
| 【導入】<br>① 子ども達とどんなお店屋さんがあるかお話をする.<br>② 「パパパン屋さん」の手遊びをする。<br>・年齢の低い子どもも多いため一回目はゆっくりとし，子どもたちが慣れて来たらスピードを速くして二回目をする.<br>・順番に作ってみたいお店屋さんの所にいく.<br><br>【展開】<br>① 各々で好きな形のパンを作る.<br>・戸惑っている子どもがいた場合には指導者が声をかけ例を見せながらイメージを持って好きなパン作りができるように促す.<br>・上手にパンが作れている子どもには褒める声掛けをする.<br>・年少のパン作りが難しい子どもには型抜きがあることを伝える.<br>・パン屋さんになりきってパン作りをするイメージが持てるよう指導者が声をかける.<br>② お店屋さんごっこをする.<br>・お買いもの券を使って自分の作ったパンを買う。<br><br>【まとめ】<br>① どんなものを作ったかなどを子ども達に尋ね，会話を楽しむ. | | 小麦粉ねんど<br>・小麦粉（一人 250ｇ）<br>・水<br>・塩<br>・絵具<br><br>パン屋<br>・ピザカッター<br>・伸ばし棒<br>・トング<br>・果物をラミネートしたもの<br>・クッキー型<br>・ねんど版<br>・袋<br>・洗面器<br>・ |

記入者　関口未来

**活動記録**

実施日 2018/05/19

| 活動 | パ・パ・パ・パンやさん | 活動日　2018 年　5 月 19 日<br>対象年齢　幼児-小学生<br>活動時間　2時間<br>対象人数　25 名<br>指導者数　9名 |
|---|---|---|
| 活動のねらい | ・他の子ども達と関わりごっこ遊びを楽しむ.<br>・小麦粉粘土に触れ，自分なりにイメージしてパンを作る. | |
| 活動内容 | | 準　備 |
| | | 小麦粉粘土<br>・小麦粉（一人 250ｇ）<br>・水<br>・塩<br>・絵具<br>パン屋<br>・ピザカッター<br>・伸ばし棒　・クッキー型<br>・トング　・ねんど版<br>・果物をラミネートしたもの　・洗面器　・袋<br>**準備したほうが良かったもの**<br>**・小麦粉粘土の予備**<br>**・麺棒** |
| 進行 | | 注意事項 |
| 【導入】<br>子ども達とどんなお店屋さんがあるか会話をする.<br>パパパンやさんの手遊びをする.<br>【展開】<br>各々で好きな形のパンやお菓子を作る.<br>→パンやピザ，お菓子の具やトッピングも紹介してつくりたいもののイメージが膨らむようにする.<br>【まとめ】<br>作った商品を買い，お店屋さんごっこを楽しむ.<br>どんなものを作ったかなどを子ども達に尋ね，会話を楽しむ. | | ・粘土ベラや麺棒を安全に使ることができているか見守りながら適宜声かけをする.<br>・制作するスペースが狭く，子ども同士の距離が近くて当たりそうになっていた.<br>----------<br>**今後の課題**<br>・小麦粉粘土の量が足りず，子どもによって使える量が違っていたので，予備の粘土があるとよいと感じた.<br>・活動するスペースが狭く，粘土板を二人で一つ使っている子どもや，場所が空くまで待っている子どもがいたので，道具やスペースに余裕があるとよいと思った.<br>・完成品をすぐに紙袋にしまってしまったのでもう少し鑑賞できる時間があると良いと感じた. | |

記入者　尾崎・細木

## ④へい，おまち！おすしやさん

実施日 2018/05/19

| 活動 | へい，おまち！おすしやさん | 対象年齢　幼児-小学生<br>活動時間　2時間<br>対象人数　25　名<br>指導者数　9名 |
|---|---|---|
| 活動のねらい | ・小麦粉粘土をこねたり，のばしたりすることで感触遊びの面白さを味わう.<br>・ごっこ遊びを通し友達との言葉のやりとり，異年齢とのかかわりを楽しむ | |
| 活動内容 | | 準備・用意・注意 |
| 【導入】<br>・イカやタコ，魚のシルエットが描いてあるペーパーサートを使ってクイズを子どもたちに出してお店の紹介をする.<br>・子どもたちにお寿司屋さんになってお寿司を握ることを簡単に話す.<br>・子どもたちの行きたいお店を聞いてグループ分けをしてそれぞれのお店へ行く.<br><br>【展開】<br>・事前に作っていたお寿司を子どもに見せて「どのお寿司を作りたいかな」などと声を掛けて子どもたちが進んでお寿司を握ることが出来るようにする.<br>・ネタをのせるご飯は小麦粉粘土を少量取り，どのように握ったらおいしそうなお寿司ができるか見本を見せながら声を掛けて握っていく．必要に応じて，一緒に握る.<br>・1 人に 1 パックを渡して握ったお寿司を詰めることを教える.<br>・好きなネタ（サーモン、マグロ、たまご、エビ）を選んでご飯の上にのせていく.<br>・たまごはのりの部分を黒い画用紙で巻いてマスキングテープでとめる．子どもが自分でもできるように教える.<br>・1 パック分のお寿司を作り，まだ作りたいと子どもが希望したらもう 1 パック渡す.<br>・お皿の上に並べたり，パックに詰めたりして，お店屋さんごっこを楽しむ.<br>・お店屋さんごっこでは学生がお店の店員さんになり子どもが自分で作ったお寿司を楽しんで買いに来ることが出来るようにする.<br>・お寿司を渡すときは「へい！いらっしゃい、お客さん」や「上手に握ることが出来たね.」などの声を掛けてお店にいった気分を味わうことが出来るようにする.<br><br>【まとめ】<br>・出来上がったお寿司はお寿司屋さんで買う.<br>・友達同士で作ったお寿司を見せ合いっこ出来るように「美味しそうなお寿司ができたね.」などの声を掛けて，子どもが達成感を味わうことが出来るようにする. | | ・小麦粉<br>（1 人 250ｇ）<br>・水<br>（小麦粉　250ｇに対し 110cc）<br>・塩（6ｇ）<br>・軽量樹脂粘土<br>・ダンボール<br>・絵具<br>・パック（粘土を持ち帰るためのもの）<br>・手拭き<br>・画用紙<br>・洗面器<br>・霧吹き<br>・お買物券<br>・輪ゴム<br>・マスキングテープ |

記入者　福島　万貴

**活動記録**

実施日 2018/05/19

| 活動 | へい，おまち！おすしやさん | 活動日 2018 年 5 月 19 日<br>対象年齢　幼児-小学生<br>活動時間　2時間<br>対象人数　25 名<br>指導者数　9名 |
|---|---|---|
| 活動のねらい | ・小麦粉粘土をこねたり，のばしたりすることで感触遊びの面白さを味わう.<br>・ごっこ遊びを通し友達との言葉のやりとり，異年齢とのかかわりを楽しむ. | |
| 活動内容 | | 準　備 |
| | | ・小麦粉<br>（一人 250ｇ）<br>・水<br>（小麦粉　250ｇに対し 110 cc）<br>・塩（6ｇ）<br>・軽量樹脂粘土<br>・ダンボール<br>・絵具<br>・パック（粘土を持ち帰るためのもの）<br>・手拭き<br>・画用紙<br>・洗面器<br>・霧吹き<br>・お買物券<br>・輪ゴム<br>・マスキングテープ |
| 進行及び注意事項 | | |
| 【導入】<br>・イカやタコ，魚のシルエットが描いてあるペーパーサートを使ってクイズを子どもたちに出してお店の紹介をする.<br>・子どもたちにお寿司屋さんになってお寿司を握ることを簡単に話す.<br>・お寿司を握る期待を高める.<br>【展開】<br>・事前に作っていたお寿司を子どもに見せて「どのお寿司を作りたいかな」などと声を掛けて子どもたちが進んでお寿司を握ることが出来るようにする.<br>・ネタをのせるご飯の大きさや形状など，見本を見せながら声を掛けて握っていく．必要に応じて、一緒に握る.<br>・好きなネタ（サーモン、マグロ、たまご、エビ）を選んでご飯の上にのせていく.<br>・1 パック分（4 貫程度）のお寿司を握り，まだ作りたいと子どもが希望したらもう 1 パック渡す.<br>・自分のお寿司パックに名前を書く.<br>・全員がお寿司を握り終えたらお店屋さんごっこができるように店頭に並べる. | | ・お店屋さんごっこでは学生がお店の店員さんになり子どもが自分で作ったお寿司を楽しんで買いに来ることが出来るようにする.<br>・友達同士や保護者に作ったお寿司を見せ合いっこ出来るように声を掛け子どもが達成感を味わうことが出来るようにする.<br>【注意事項】<br>・小麦粉粘土を食べない。<br>・机に人数が集中して活動できない子が出来てしまわないように見守る.<br>・自分の作品と友だちの作品を間違えてしまわないように、完成した作品のパックに名前を書いておけておく.<br>【今後の課題】<br>・ネタの種類をもう少し用意しておく.（タコ，イクラなど）<br>・時間の都合もあったが，子どもたちの作りたいネタを作らしてあげることもいい活動になると思った.<br>・手ぬぐいやはっぴを用意しておくと，さらにお寿司屋さんの雰囲気が出てよいのではないかと思った.<br>・海苔を使ったお寿司（軍艦）もあるとよかった.<br>・具材を切る要素があるとよかった. | |

記入者　尾崎希・細木陽向

# ⑤カラフル ミラクル アイスやさん

**アイデアカード**

実施日 2018/05/19

| 活動 | カラフル ミラクル アイスやさん | 対象年齢　幼児-小学生<br>活動時間　2時間 |
|---|---|---|
| 活動のねらい | ・小麦粉粘土のアイスクリームを使ってみたてあそびを楽しむ.<br>・アイスクリーム屋さんになりきり，友だちや指導者，保護者と言葉で伝え合うことを楽しむ. | 対象人数　25　名<br>指導者数　9名 |

| 活動内容 | 準備・用意・注意 |
|---|---|
| 【導入】<br>○お店の紹介をする.<br>・お買いもの券の確認をする.<br>・アイスクリームについてのクイズを出し，次の活動に興味がもてるようにする.<br>・実際にアイス屋さんで作るコーンに乗ったアイスクリームを見せ，子どもたちにイメージしやすいようにお店の紹介をする.<br>【展開】<br>○アイスクリームのカップやコーンを作る.<br>・子ども一人一人にカップかコーンか選んでもらい，油性マジックで，絵や色を付けてもらう．見本を机に置いておき，視覚的にも理解しやすいようにする.<br>○アイスクリームを作る.<br>・たらいの中に色を付けた小麦粉粘土を５種類用意しておき，自由に好きな色を選ぶことができるようにしておく.<br>・ディッシャーの使い方を見本を見せながら伝える.<br>・「おいしそうにできたね」など声をかけ，さらにやってみたいと思えるようにする.<br>・色や感触について子どもが興味を持てるような声かけをする.<br>○アイスクリームに飾りつけをする.<br>・ビーズやスパンコールを用意し，アイスクリームのトッピングとして使えるように準備しておく.<br>・紙皿に入れ，子どもたちがとりやすいようにしておく.<br>○名前を書いてもらう.<br>・次のお店屋さんの活動で自分のものがわかるようにしておく.<br>○アイスクリーム屋さんごっこをする.<br>・初めに渡していたお買いもの券を使って，自分の作ったアイスを売ったり，買ったりする.<br>・ごっこ遊びが発展していくような声かけや援助をする.<br>【まとめ】<br>○持って帰る準備をする.<br>・手を洗う.<br>・持って帰りやすいように，作ったものを袋に入れてもらう. | ・小麦粉<br>・計量カップ<br>・水<br>・絵具<br>・油性ペン<br>・机<br>・ディッシャー（６本）<br>・コーン（段ボール）<br>・カップ<br>・お買いもの券<br>・たらい（５つ）<br>・ビーズ<br>・スパンコール<br>・紙袋<br>・ビニール袋<br>・筆洗バケツ（アイス屋さんをするときにアイスを立てた）<br>・布巾 |

記入者　田中　芽依

**活動記録**

実施日 2018/05/19

| 活動 | カラフル　ミラクル　アイスやさん | 活動日 2018 年　5月日<br>対象年齢　幼児-小学生<br>活動時間　2時間 |
|---|---|---|
| 活動のねらい | ・小麦粉粘土のアイスクリームを使ってみたてあそびを楽しむ.<br>・アイスクリーム屋さんになりきり，友だちや指導者，保護者と言葉で伝え合うことを楽しむ. | 対象人数　25 名<br>指導者数　9 名 |

活動内容

| 準　備 |
|---|
| ・小麦粉，水<br>・ビーズ<br>・計量カップ<br>・紙袋<br>・スパンコール<br>・絵具<br>・ビニール袋<br>・油性ペン<br>・筆洗バケツ<br>・机<br>・ディッシャー（６本）<br>・コーン（段ボール）<br>・カップ<br>・お買いもの券<br>・たらい（５つ）<br>----------<br>**準備したほうが良かったもの**<br>・アイスクリームを立てるスタンド |

| 進行 | 注意事項 |
|---|---|
| 【導入】<br>・お店の紹介をする.<br>【展開】<br>・カップかコーンにアイスクリームを盛り付ける.<br>→子ども一人一人にカップかコーンか選んでもらい，好きなアイスクリーム（黄色，紫，黄緑，オレンジ）をディッシャーですくって入れる.<br>・アイスクリームに好きなトッピングを飾りつける.<br>・名前を書いてもらう.<br>【まとめ】<br>・アイスクリーム屋さんごっこをする.<br>・どんなアイスを作ったのか聞き合い，会話を楽しむ.<br>・持って帰る準備をする. | ・年齢の低い子どもがビーズやスパンコールを誤って口に入れないよう見守り,適宜声をかける.<br>・ディッシャーの使い方について見本を見せながら伝える.<br>----------<br>**今後の課題**<br>・スパンコールやビーズ，カラフルな粘土でかわいいアイスクリームができていたが，皆似たようなものになっていたので，何か一人ひとりの個性が出るような工夫があると良いと感じた.<br>・カップの数に余裕を持たせて準備しておくと良いと思った.<br>・コーンを立てるアイススタンドが不安定だったので，頑丈な物を用意すると良いと思った.<br>・アイスクリームを作る過程で，他の色同士を混ぜてオリジナルフレーバーを作る事ができるなどの工夫があると良いと感じた. |

記入者　尾崎・細木